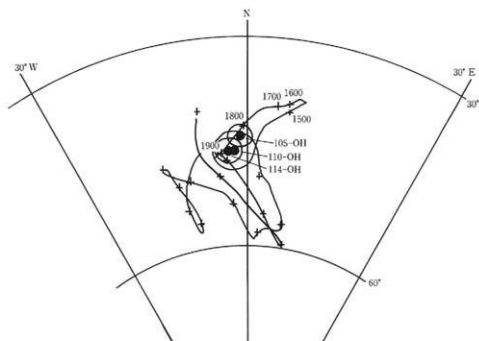


第41図 各サイトごとの各試料の消磁前と交差消磁後の残留化方向の等面積投影図



第42図 各サイトの平均磁化方向の等面積投影図

第40図 各サイトのパイロットサンプルの段階交流消磁結果の直交消磁図。

各消磁段階での磁化ベクトルの終点の水平面と南北軸を含む垂直面に投影したものを合わせた図で、白丸は水平面への投影を黒丸は垂直面への投影である。この図上で安定な磁化は原点に向かう直線で表される。水平面投影の点の横にある数字は交流消磁レベルで、単位はmT（ミリテスラ）である。単位はSI単位系で示したが、cgs単位系との換算は、 $1 \text{ mT} = 100\text{e}$ 、 $1 \mu \text{ Am}^2 = 10^{-3} \text{ emu}$ である。

第41図 各サイトごとの各試料の消磁前（NRM）と7.5mTでの交流消磁後（AFD7.5mT）の残留磁化方向の等面積投影図。

第42図 各サイトの平均磁化方向の等面積投影図。

第1表の交流消磁後の平均（A、BあるものについてはB）である。黒丸が各サイトの平均磁化方向、そのまわりの楕円は平均方向の95%信頼限界である。曲線はShibuya（1980）による過去2000年の西南日本の考古地磁気標準曲線。

図

版



I区全景 (南東から)



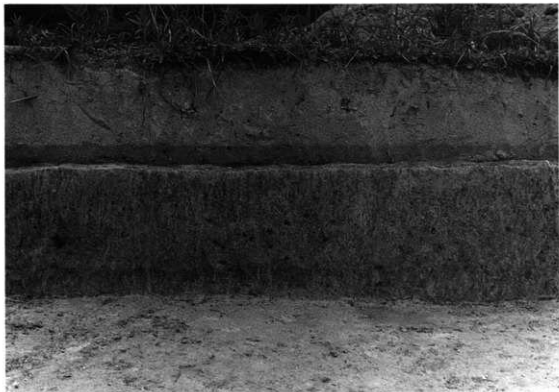
I区空中写真



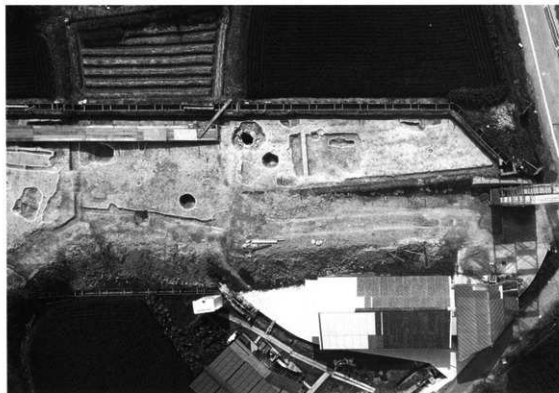
Ⅱ区全景（北西から）



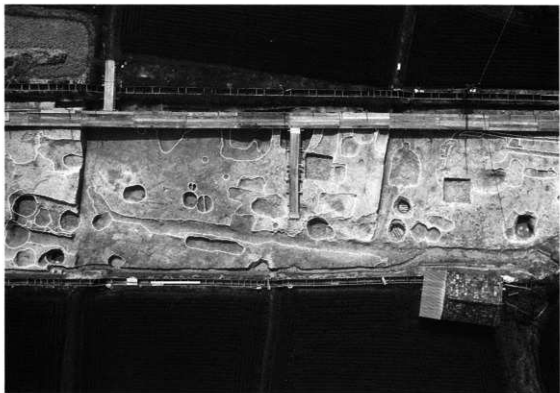
Ⅱ区全景（南東から）



I区土層堆積状況（北東から）



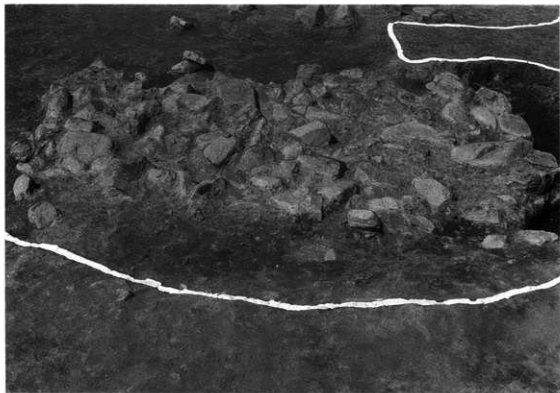
II区空中写真



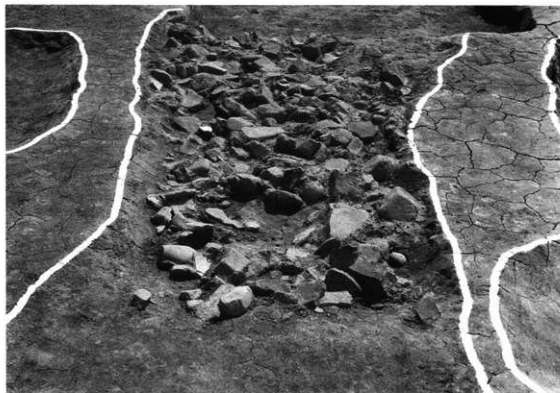
Ⅱ区空中写真



Ⅱ区空中写真



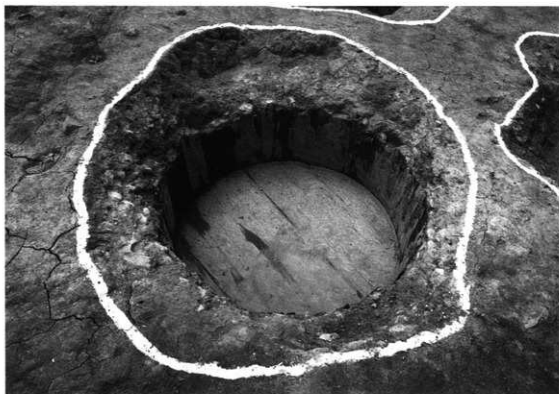
6-00 礎出土状況 (南西から)



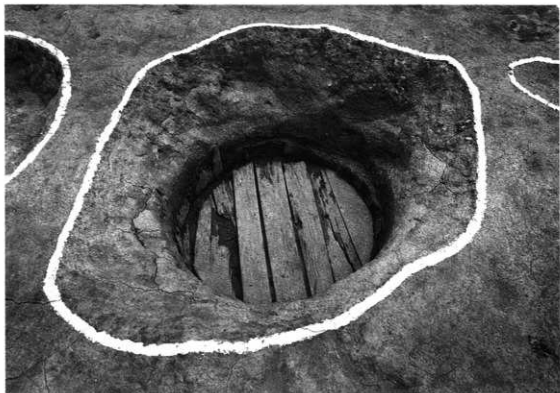
7-00 礎出土状況 (南西から)



91-OX (南から)



101-OX (北東から)



102-OX (北西から)



96-OH (南から)



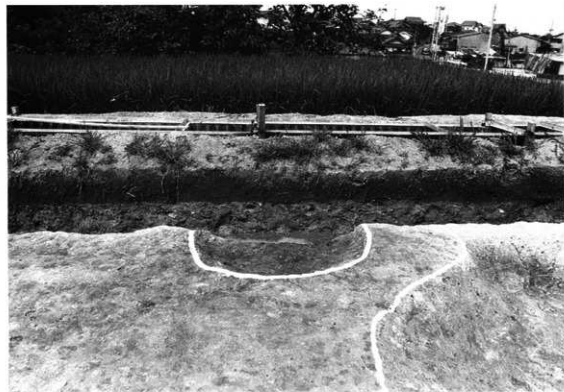
8-OW (南から)



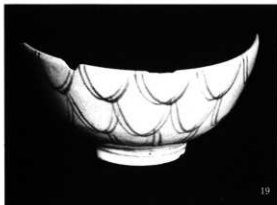
8-OW (南から)



36-OH (東から)



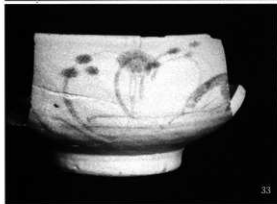
79-OH および土層堆積状況 (北東から)



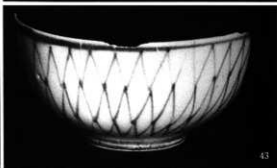
19



38



33



43



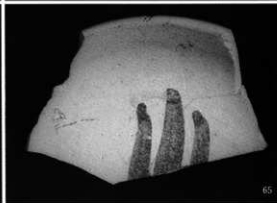
34



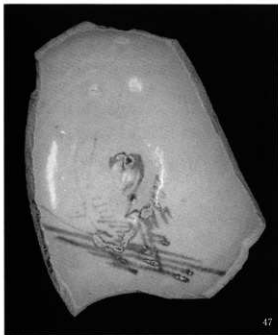
46



37



65



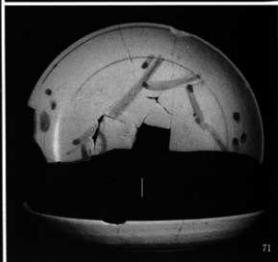
47



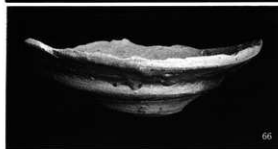
70



48



71



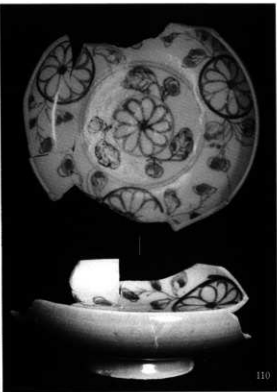
66



95



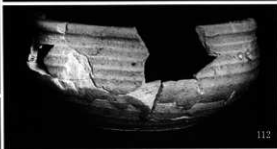
88



110



98



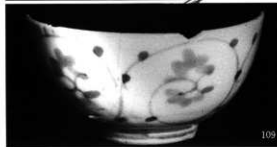
112



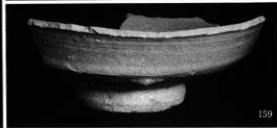
99



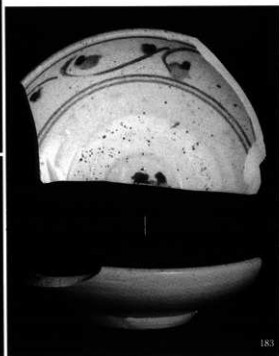
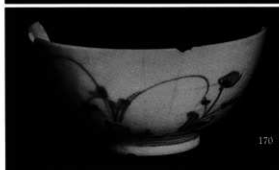
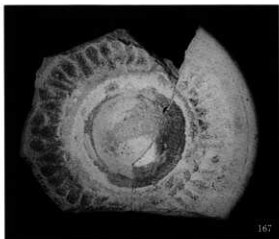
122

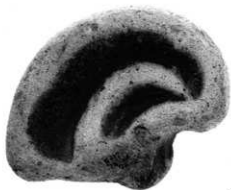


109

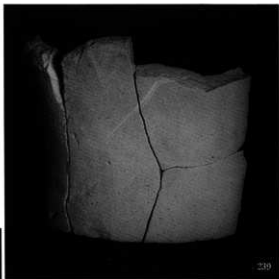


159

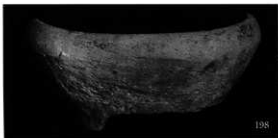




191



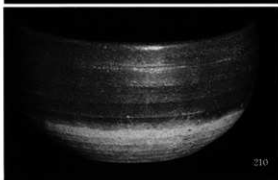
239



198



241



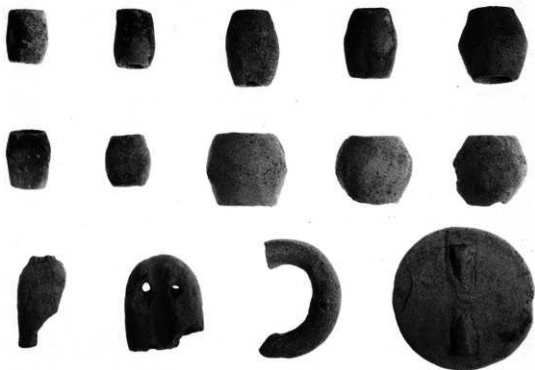
210



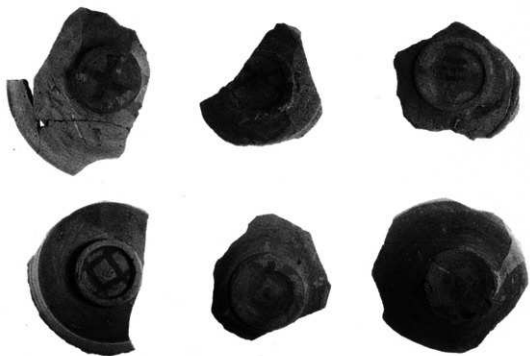
214



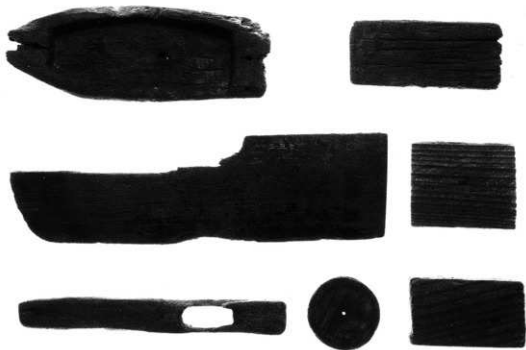
249



遺構内出土製品



唐津焼高台内の墨書



8-OW出土木製品



226

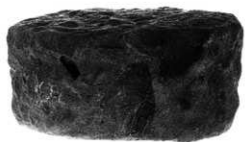


228



229

42-00出土瓦

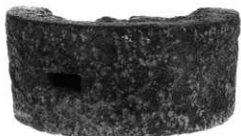
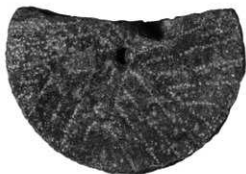


243

244



247



248

242



250



251



252



253



246



245

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第19輯

貝掛遺跡

—発掘調査報告書—

昭和63年3月31日発行

編集・発行 財団法人 大阪府埋蔵文化財協会
大阪府東区谷町2丁目36番地大手前ウツサミビル

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

